



読書の秋

〇〇の秋と言えば、読書の秋を思い浮かべる方も多いかもしれません。読書は、新たな発見や感動をもたらすとともに、知識や教養を深める身近な文化活動といえます。今回は、そんな読書に関する統計データを見てみましょう。

文化庁の「国語に関する世論調査」によると、令和5年度における全国の16歳以上が1か月に1冊以上の本（雑誌や漫画を除く）を読む割合は36.9%となっています。一方で、1か月に本を読まない割合は62.6%となっており、本を読む人の割合を上回っていることが分かります。（図1）

また、読書量の変化を見ると、読書量が減っているという割合が69.1%と最も多くなっています。同調査によると、読書量が減少している理由として、情報機器で時間が取られる等が挙げられています。（図2）

図1 1か月に読む本の冊数(全国)

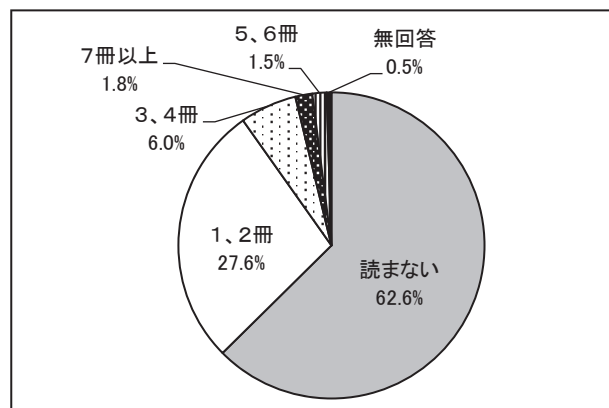
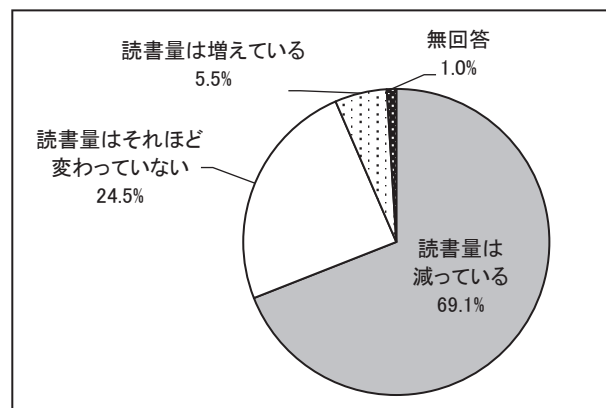


図2 読書量の変化(全国)

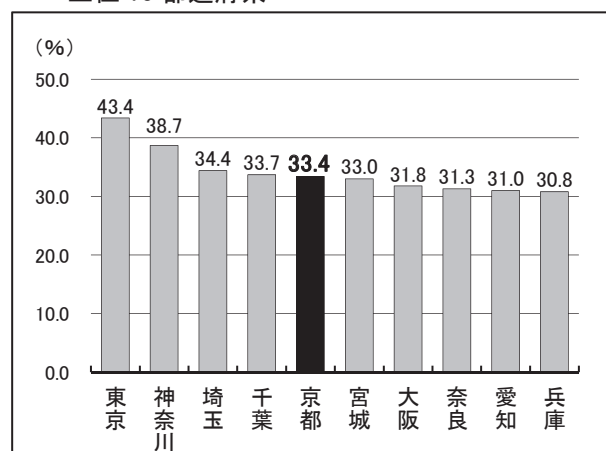


出典: 令和5年度国語に関する世論調査(文化庁)

総務省統計局の「令和3年社会生活基本調査」によると、10歳以上の人々が1年間に「趣味としての読書（マンガを除く）」を行った割合（行動者率）は、京都府で33.4%となっています。これは全都道府県の中で5番目に高くなっており、京都府では読書に親しむ人が比較的多い傾向がうかがえます。（図3）

近年では、紙の書籍だけでなく、電子書籍も普及してきており、読書の多様化が進んでいます。ふと目に留まった一冊が、新たな興味や発見をもたらすかもしれません。この秋は、お気に入りの1冊を見つけて、読書の秋を過ごされてはいかがでしょうか。

図3 「趣味としての読書（マンガを除く）」の行動者率 上位10都道府県



出典: 令和3年社会生活基本調査(総務省統計局)